

小金井市立はけの森美術館運営協議会

会議録（第1回）

平成18年7月25日（火）開催

第1回小金井市立はけの森美術館運営協議会

- 日 時 平成18年7月25日(火)
午後6時から午後7時30分まで
- 場 所 前原暫定集会施設 A会議室
- 進 行 司 会 はけの森美術館 渡邊
1 委嘱状交付 市長
2 挨拶 市長
3 委員自己紹介 各委員
4 正副会長互選 各委員
5 協議 各委員
6 今後の予定 会長
7 その他 はけの森美術館 渡邊
- 出席者 稲葉小金井市長
鉄矢委員、宮村委員、淀井委員、千村委員、富士道委員、小柳委員、薩摩学芸顧問、横田学芸員
事務局(渡邊、鈴木、早坂)

① 委嘱状交付

② 市長挨拶

(稲葉市長)

- ・ 皆様こんにちは。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。各委員の皆様には小金井市立はけの森美術館運営協議会委員をお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。当美術館が目指す理念は、芸術文化施設に留まらず市民参加・参画型の美術館であり、また、子どもたちの新教育普及プログラムを充実させることにあります。

皆様には、当美術館における運営のあり方、事業内容、経営等につき幅広い見地から検討いただき市の新たな芸術文化の創造及び文化振興のためお力をお貸しいただきたいと思っております。

ご存知のとおり自然に恵まれたロケーションにある美術館です。しかし、なかなかあまり多くの方々が今まで来ていただけなかったというような状況もありましていつ行っても静かでいいなとは思いますが、前にも後ろにも誰もいないというのはちょっと寂しいような感じもしてはいたんですけど非常に恵まれた環境、今日お話があるのかどうか判りませんが、美術の森の花侵庵を手を加えてオープンミトンが店をやってくださるといって散歩の途中によって、美術館によってそこでコーヒーを飲んでというようなことで楽しんでいただけるのかなと思っております。私は、北の方からも入れるようにすべきだと。あそこはふさいでいましてあそこからも入ってくれば入りやすいのに何でぐるっとまわらなければならないのだと。なかなか環境の方々あまり入ってほしくないというけど、何のためにあるのかなと思っております。今言っているんですけど私が勝つか環境政策課が勝つか是非応援していただきたいと思っております。すばらしい小さいけどきらりと光る美術館を目指してまいりますので、皆様にはよろしくお願ひしたいと思ひます。

また、薩摩先生にはいろいろお世話になりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

③ 委員自己紹介

(鉄矢委員)

鉄矢悦朗と申します。今、学芸大学でデザインを教えております。前回の小金井市立はけの森美術館管理運営実施計画についての提言の時にも委員の1名として発言をさせていただいております。あまり会議というのはうまくなくて、失言も多いんですけどおおめに見て付き合っただきたいと思います。

(淀井委員)

小金井に結婚してから来ましたので、かなりの年数を過ごしています。私は、下北沢から来ましたけど遠いところだなと思いました。早くここから抜け出したいと実は思っていたのですが、娘が生まれたりして南小学校に行って中学校出たりして、彼女たちにとっては、もうここが故里で「あっ、そうだったんだ。」と自覚したとたんに私も小金井の市民らしくお世話になっています。

今、職場は、渋谷に通っています。画家として活動していますので小金井の自宅で絵を描き、生活をして発表もしているということで、今回ははけの森美術館の方にこういうことで関わることができ、うれしく思っています。どうぞよろしく願いいたします。

(千村委員)

先ほど市長さんにお会いして本当にまた登場しまして、はずかしくて市民活動の権現みたいな感じで海外派遣というものをやらせていただいた後、いろんな活動に本当に市民活動の日々を過ごしているような感じでした。絵が大好きで、子どもの時から地域の小学校の先生たちが作っている絵の日曜学校に一年生から六年生まで通ってそして中学でまた絵の先生について学んでまた高校の時、日展の先生のお宅に伺ったような本当に絵が好きな人間だったんですが、将来というか進路を美術学校というかどちらかというより美術学校というよりもファッションとかテキスタイルとかそういうのを勉強したかったんですが、兄弟も多いし地方の出身ですので、親がお金がないからだめということで、とにかく早く教師になって妹や弟の経済的な面倒をみてくれというんで親に反抗しまして理系を勉強したら女なんか先生になれるわけないということで、専門は生物で理科と生物を勉強したんですが、案の定、教師になった時に校長室から何だ女か、女はだめだと言っただろうという一言でな

くなくまた実家に帰って悶々と日々を過ごしたりしていましたが、まあこういった教員になったんですがそれは理科の教師としてとても楽しい日々でそういうことも勉強してきて良かったということで、今それが役立って環境のほうの環境委員とか環境条例づくりとかいろいろに関わって何か環境の権現みたいになっていて、こういう何かどちらかという環境の人に怒られるかもしれないけど、がさつなところからこういう上品な美術的な芸術的なところに参加させていただいて本当にうれしく何のお役に立つかわかりませんが、私として本当に選んでいただいてとても良かったという感じで、主に今は子どもたちの南小の土曜日の空き教室を借りてもう四年目ですが、土曜のたまり場という工作教室やら絵教室それからもう十数年70歳、80歳、90歳のお年寄りの絵描き教室を十年くらいやってそういう人とのネットワーク付き合いの中で楽しく過ごしています。よろしく願いいたします。

(宮村委員)

こんばんは。宮村令子と申します。私は、専業主婦なんですが、以前は服飾のほうの企画デザインの多くの仕事をしていまして小さいときから大変絵が好きで、また、今、娘が小学校四年生なんですが、娘にも機会を見つけて美術に触れさせてあげたいなと思っております。

私も小金井二中の出身で、何かお役に立てることがあればと思ひまして小金井のはげの森美術館が多く事例におきまして小金井の本当の特徴を生かしたすばらしい美術館なので是非私も何かお役に立てることがあれば喜んでさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(富士道委員)

名簿一番下にございますけれども、教育委員会の指導室長をしております富士道でございます。先ほど市長のお話の中に子どもたちが参加をしてまた教育との関連というようなことがございました。

そういうことで恐らくやれという話になったのかなと推測をしておりますが、その立場からお話をさせていただければなと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

(小柳委員)

美術館長の小柳です。どうぞよろしく願いいたします。お手元に資料といたしましてはげの森美術館の年間スケジュール(案)をお配りし

てございます。

そちらを見ていただきますと、今年4月1日、2日にかけてははけの森美術館がオープンしました。現在は、開館記念といたしまして中村研一所蔵作品展その1、その2とありますが、1回目はもうすでに終わりましたが9月24日までのスケジュールで2回目を現在開催している状況でございます。

その後、先ほど市長のご挨拶の中でもありましたように10月には美術館の横にあります喫茶棟が新たにオープンミトンさんが営業いたしまして喫茶をする予定になっております。

それと同時に美術の森の北門を今開けるよう市長の方から環境政策の方に調整をとっておりますので、開館と同時に工事が始まってしばらくご迷惑をお掛けするかとは思いますが開園をする予定になっておりますので、美術館にもお立ち寄りいただけるお客様が増えることを望んでおります。

それと同時に今年10月には、中村研一回顧展を開催する予定になってございます。また、12月には小学校四年生を対象にいたしましたワークショップ展また来年2月には市内作家展を開催予定にしておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

また、現在の入館者数ですが、4月につきましては1日2日と無料開館いたしました関係で1,307名の入館者数がございました。それから5月につきましては、548名と極端に半分位に減ってしまったんですが5月は548名の入館者数がございました。また、6月にはまた減りまして369名の入館者数ということで月を追うごとに減少傾向にありますので皆様のお力を何とかご意見等を受け賜わって健全な美術館運営ができますことを希望いたしまして、どうぞ今後とも市民の憩いの場あるいは交流の場として美術館が活用されますことを希望いたしましてごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

(事務局渡邊)

それでは、小金井市の学芸顧問をご紹介したいと思います。小金井市立はけの森美術館の運営及び事業実施に関し、専門的な立場から指導、助言を受け、本市の新たな芸術文化の創造及び振興を図ることを目的に小金井市学芸顧問の設置が義務付けられております。学芸顧問をされて

おります薩摩雅登様をご紹介させていただきます。

現在、薩摩様は、東京芸術大学美術館助教授をされております。それでは、薩摩様にご挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(薩摩学芸顧問)

今、紹介にあずかりました薩摩でございます。この美術館を設立します過去2つの委員会の委員及び委員長をさせていただいたことがございまして、学芸顧問という若干ちょっと私の柄には確かに柄に合わないところがございすけれども、この美術館にある意味で関わってきてこのことはハード的には環境を含めてすばらしいものが残っているところですので、あとそれにどうやってソフトの図案に小金井市財政状況を触れたりいろんなことを含めて進めていくか認識しております。

それから、私が委員をお引き受けした時からずっと私自身に課していたことなのではけれどもこういう小さな美術館を運営していくということは皆頭を使いそして手も動かし足も動かすと顧問だからといって口だけ出すというようなそういうことでは絶対あってはならないということは思っております。

ですから、皆様のお力でお知恵を拝借したいと思っておりますし、それからもしかするといろんな企画、いろんな行動具体的なこともお願いするかと思っておりますけれどもそれは、私自身が自分もそのつもりでおります。いざとなれば本当に必要となれば清掃でも何でもするくらいの覚悟でおりますので、そのような気持ちでこれからも美術館をまあそう簡単にはなかなか起動には乗らないということは覚悟しておりますけれどもじっくりと時間をかけてやっていきたいと思っておりますので、これから多くの皆様、スタッフ、いろいろな方々が手伝ってくださればまた新たな展開も期待できると思っておりますのでどうかよろしくお願いいたします。

(美術館渡邊)

本協議会としましても学芸顧問としてのご意見をお聞きしながら進めてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

本協議会に起きますとは、公開の協議会になっておりますので、議事録作成のための録音をさせていただきますのでご了承をお願いしたいと思います。

それでは、職員の紹介をさせていただきます。

美術館長の小柳です。学芸員の横田です。学芸員の大野です。そして私事務担当の渡邊です。

続きまして、文化交流係の職員を紹介いたします。

係長の鈴木です。主事の早坂です。

どうぞよろしく申し上げます。

④ 正副会長互選

(美術館渡邊)

それでは、次に、正副会長の互選を行います。

はじめに、会長の互選を行います。会長に立候補される方の挙手をお願いいたします。無いようですので、どなたか会長にご推薦いただきたいと思います。

(淀井委員)

鉄矢先生がよろしいのではないのでしょうか。今までの経験から、適任ではないかと思うのですけど。

(美術館渡邊)

ただ今、淀井委員から鉄矢委員を推薦されましたけれどもお諮りしたいと思います。会長に鉄矢委員を選出することにご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

鉄矢委員を会長とすることに決定いたしました。

鉄矢会長につきましてはよろしくお願ひしたいと思います。

鉄矢会長からご挨拶をお願いします。

(鉄矢会長挨拶)

決まったからには進むしかないと思います。淀井委員から今までの経緯を知っているからという推薦理由を大切にしていこうと思います。前回のはげの森の提言の時もそれ以前の経緯を踏まえていかないといけないと感じてました。今まで市民活動として市民の力が結集してきたものをそのままちゃんと市民たちが思えるような形にしていかなければいけないと考えます。私も調布市で NPO 調布まちづくりの会という理事をやっていますので、市民活動をそう考えます。

でも一方、アーティストとして考えると幕の内弁当というような美術館にはしたくない。みんなの意見を聞いてプラス、マイナス何となく

プラスのような格好でふわぁとしているものよりは少し尖がってみて光るものにしていきたいと思っております。ちなみに学芸顧問の先生は、恩師ですので、わたしから言いにくいことは皆さんの方からがんとおっしゃっていただけるといいと思いますのでよろしくお願ひします。以上です。

(鉄矢会長)

副会長の互選ということになります。副会長を自選、推薦をお願いいたします。副会長というのは、会長が休んだ時にやっていくということですね。会長が休まない限り仕事は普通の委員と同じというふうにやって肩の力を抜いていただひて私は会長になったからにはなるべく休まないようにするのと会議の日程も多分私が出られないということだと多分事務局が都合をつけて私が出やすい方にしてくれるのだと思うのですね。何か交通事故にあつて足引きずつてどうしても動けないということにならない限りないと思ひます。せつかく市民のものですから、市民という立場で市民の方あるいは若い方の意見とかいろいろな自由な意見を肩書きの重い軽いでこういうふうにする協議会でないと思ひますのでせつかく市民でやりたいと手を上げたからその延長上に副会長もあるというのもいいのではないですか。

宮村さんいかがでしょう。

傍聴の方もお母さん方が傍聴できるとかいろいろな工夫ができるかと思うのですね。この時間だとお母さん方傍聴できませんね。つい私のペースでいくとやっぱり「夜が楽」とか言つて夜やっていると結局は市民の傍聴の方がないという状況になりかねません。委員みんなで支援していきますのでよろしくお願ひします。

(宮村副会長)

本当にすごくここに入つて緊張してまして、まさかこんなことになるとは思つてないのですが、とにかくできることをやつていきたくと思ひます。

皆さんどうぞ本当に何もわかりませんがよろしくお願ひします。

(美術館渡邊)

市長はこの後公務がございますので、退席させて頂きたいと思ひます。

(市長)

今日の内容は、担当の方から報告させますので、どうぞよろしくお願ひいたします。2年間お世話になりますが大よろしくお願ひいたします。

(会長、副会長席へ移動)

開館までの流れを共通認識としましょうということで事務局から冊子の提言を中心に説明して頂いて質問を各委員から受け付けるといふ格好で進めていきたいと思ひます。

⑤ 協議

(小柳美術館長)

それでは、私のほうからご説明をさせていただきたいと思ひます。

お手元に資料といたしましてははけの森美術館の管理運営実施計画についてのご提言という冊子があると思ひますが、こちらを参考にさせていただきましてご説明させていただきます。

平成18年2月に提言が出されまして、先ほどもお話がございましたけれども薩摩先生また鉄矢先生に委員になっていただきましてご協力をいただきましたのでこの場をお借りしましてありがとうございます。お礼を申し上げます。

それでは、はけの森美術館開館までの経過をご説明させていただきます。

まず、平成元年5月14日に中村研一記念美術館として現在の中町にオープンしてございます。こちらは、まだ民営で中村研一氏自身が建てております。平成3年2月に中村研一記念美術館を財団法人化し財団法人中村研一美術館となっております。

平成13年3月には、財団法人中村研一美術館を小金井市へ寄贈しますという市に嘆願書が提出されてございます。平成15年8月には、冊子をつくっていただきました(仮称)中村研一記念美術館管理運営基本計画策定委員会が設置されまして、市立美術館としてのあり方についての検討を平成15年9月26日ですが、市議会9月定例会に寄贈の申出に基づく議案が採択されております。こちらは、後ほど説明させていただきたいと思ひますが、寄附を申し受けるに当たっての4項目の事項が議会で議決されて条件付き寄附を申し受けるという形の議決がされて

おります。

平成15年12月には、財団の理事会が解散しております。平成15年12月17日、解散に向けての美術館が休館になっております。

平成16年2月には、寄附に伴う美術館の改修工事が始まっております。

それから、全面寄附ではなく奥様の中村富子さんが今年99歳ですが、ご健在でお2階にお住まいになっておりますのでその方につきましてはご本人がお亡くなりになるまで居住させてくださいということの申し出がありましたので、それを受けてお亡くなりになってしばらくしてすべてを撤去しますという条件付きで受け入れております。

平成17年1月には、管理運営検討委員会が設置されて、冊子に基づく市長への提言書を提出しております。平成17年10月には、現在の小金井市立はけの森美術館という名称が決定して今年4月1日開館を迎えたというのが美術館の今までの経過でございます。

平成15年9月26日に小金井市議会9月定例会で寄附を申し受けるに当たっての条件付きで議決されたということをお申しましたけれども、その内容につきましては、1点目が財団法人中村研一美術館の財産と中村富子氏個人の財産を明確にした上で寄附を受けること。2点目として本件議案において条件とされて居住部分の使用を除いては土地建物のすべてを公共的に使用するものとする。3点目に市が提案する企画展などを白紙にもどし公立美術館のあり方と有効利用を市民参加のもとに中村研一美術館管理運営基本計画策定委員会等で十分論議を深めること。こちらにつきましては、論議した後の提言書になってございますので、そういう経過がございます。4点目につきましては、管理運営や建物改修について、市財政の状況も考え極力経費をかけないよう配慮すること。以上が付帯決議で議決された内容になっております。

以上を受けまして平成16年2月に改修工事がはじまっておりますけれども6月1日には、付帯付き寄附を条件に小金井市が受け入れをしてございます。

中村研一画伯はどういう人かということを共通認識でもっていただくために、ご紹介させていただきたいと思っております。

中村画伯につきましては、明治28年5月に福岡県宗像郡南郷村に誕生されております。大正4年に東京美術学校（現東京藝術大学西洋画科本科）に入学され、昭和9年本科を卒業され、この間第8回光風会展、

第2回帝展に初入選をされております。また、大正12年12月には、渡仏してパリに行かれておりまして、昭和2年にはサラウンドボトムヌ会員に推薦をされております。昭和3年に帰国、昭和4年には冨子氏と結婚をされ、昭和20年5月には代々木初台にお住まいのアトリエとご自宅があったのですが焼失をされました。その間、数々の作品を帝展に出品され特選受賞するなどの功績を残されております。

昭和20年12月には、小金井市の「現在のお住まいになっている所に転居されまして昭和25年日展運営会の参事や日本芸術院の会員になるなど数々の功績を残されております。

また、昭和42年8月には、72歳というご年齢でご逝去なされた経歴の持ち主の方でございます。以上が中村研一氏についての経歴でございます。

続きまして、提言の内容についてご説明したいと思っておりますので、冊子をご覧いただきたいと思っております。

3ページ目をご覧いただきたいと思っております。本美術館の理念が書いてございまして1項目から5項目の部分まで記載されてございます。

順次ご説明いたしますと、市立美術館としての役割を負うことということで中村研一画伯の画業を顕彰しつつも、今後の市立美術館として、広く多様な美術を中心とする芸術文化を提供し市民に愛される場とするということが挙げられています。また、2番目には、芸術文化施設と位置付けるということで子どもから大人までの小金井の芸術文化を高めるということで中心的な機能を持つ場とするということになっております。3番目につきましても市民主体の美術館をめざして市民参画あるいは参加型美術館をめざすということで小金井市民のあくまでも美術館であるということを中心に展開するようという提言になってございます。また4といたしましても指導室長が在席されておりますけれども子ども向けの教育プログラムなどに力点を置いた教育活動の場としての美術館をめざすということも提言の中には入っています。また5といたしましても地域における美術を中心とする芸術文化活動の場とするということで先ほど年間スケジュールの中でもご説明をさせていただきましたが市内作家展数々の展覧会等も企画しておりますのでこの中の5番に該当するかと思います。こういう企画も兼ねて実施するようというごことですのでその辺もよろしくお願ひしたいと思っております。

ります。

次に、5ページ目をご覧いただきたいと思います。まず事業の方針として5項目あがってございますけれども、これに基づきましては美術館は今年の4月に開館して先程も年間スケジュールのとおりあくまでも市民主体の企画展ということで発表させていただきましたけれども、とにかく市民参加型の美術館を目指しておりますのでこの点も美術館のめざす方向かと考えておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

12ページをお開きください。本委員会の運営協議会②といたしまして、運営協議会のあり方も提言として入っておりますのでその中で年間開催回数は4回の予算がとれていますが、必要に応じてその都度美術館の運営のあり方や事業内容、経営について皆様にご意見をいただくような形をとっておりますのでどうぞ協力の程よろしく願いしたいと思います。それとあと資料といたしましては、今までの立ち上がった管理運営実施計画検討委員会の設置要綱あるいは29ページにははけの森美術館条例といったもの条例、要綱がのっていますので、後ほど詳しく皆様方にはお読みしていただきたいと思っておりますのでどうぞよろしく願い致します。以上が簡単でございますが、内容の説明であります。

(鉄矢会長)

今の説明に対してもし質問がありませんか。では、私から少し質問を。

設置要綱というのがあったので、この協議会の設置要綱を見せていただいていたので設置要綱をいただけると皆さんも自分の人の配置というのがよくわかると思いますので。といいますのは、運営協議会ということで市長の諮問機関ということ、この間何かの紙が来たときに書いてあったんですがこの提言には館長の諮問機関になっておりますのでその辺は市長も館長も一体で市だから同じだよという話なのか。

(小柳委員)

市長の諮問という形になっております。

(鉄矢会長)

他に何か質問ありますか。

(淀井委員)

本美術館の理念というのは、皆様が長い時間かけてこういう形にまとめたのですけれどももう一つ見るとよくわからない。

私は初めてだから例えば市民参加といったってそれは何ということ
を指して市民参加というのか。

(鉄矢会長)

市民がここで美術作品を展示するという意見ではなくてどこか提言
書に書いてあります。ちゃんとした美術作品を市民に向かって提供でき
るように書いてあります。

(淀井委員)

いろんな展示施設が美術館ではなくてあるんですよ。小金井市は。

(小柳委員)

3 ページ⑤に地域における美術を中心とする芸術文化活動の場とす
るということでこの中に本美術館独自の個性として活かしながら幅広
い年齢の人々の学ぶ意欲を受け止め、地域における美術を中心とする芸
術文化の一端を担い、生涯学習社会の成熟に寄与するというで書いて
ございます。具体的には、

(淀井委員)

3 か5に関連してくるわけですね。

(小柳委員)

もう一つは、6 ページ展示の中で市民に優れた作品鑑賞の機会を提供
すると書いています。

(鉄矢会長)

多分おっしゃる心配は、市民ギャラリーに市民の貸しギャラリーにな
っていくのかということです。それは無いと提言のほうに書いてござい
ます。

(淀井委員)

これは難かしいところですよね。ただ、分けるという意味ではなくてど
ういう趣旨かなと思ったんですね。

(千村委員)

なかなかそこは大事だと思ってまして、芸術作品には、品格とか品位
の差はないけれどもそんなことがどこら辺で線引きになるかみたいな
ことが懸念されます。

さりとて、市民の提示する場所というのは今より十分ないところは
ないのでそこら辺もよく問題になります。

(鉄矢会長)

6 ページの優れた作品という表現の部分ともう一つ幅広い芸術ということが提言書に書いてあります。

(薩摩学芸顧問)

管理運営実施計画検討委員会前のその前の委員会の提示が参考資料として出ています。32 ページからなのですけども、中村研一美術館管理運営基本計画策定委員会がございました。

2つの委員会で私が委員長の立場で関わったのですが、本当に委員の方々に恵まれまして、非常にいい意見がでました。提言書というのは、なかなかある程度まとめた文章にならざるを得ないのですけれども、それがいい意見で、この委員会の時に真っ先に委員の方々が危惧したのは、小金井市が市の美術館にするんだけども市がお金を出さずにすむ市民がただでやってもらおうとボランティアとか利用者にやってもらおうと。そして結果として市民ギャラリーのようなものになっていく。そうなるようなことであっては困るということがかなり早い段階から委員の間からも出ておりました。例えば上から4行目に「いずれにしても、美術館学芸活動の本来的性格から考えて、「美術館」の NPO 法人などへの運営委託は、美術館業務全体の市から“丸投げ”となってはならない」と NPO 格や NPO 法人が市の外郭団体や下請け機関のような存在となってはならないということが書いてあります。

それから、44 ページ7行目「美術館における企画展は数や量を競うことは意味はない」とはっきり提言しております。深い見識と豊かな発想で質の高い個性的な企画展を開催することにより、小さな「美術館」から小金井市内だけでなく、近隣、そして全国に文化を発信し、集客を見込むことが可能となろうと書いてあります。あるいは、44 ページの(4)その他のところですけども、「美術館」における市民の作品展示については、建設が予定されている東小金井駅南口の集会施設内の市民ギャラリーと武蔵小金井駅南口の(仮称)市民交流センター内に開設予定の市民ギャラリーとの役割分担、駅から遠い「美術館」の立地条件、美術館としての品格などを十分には配慮して検討する必要がある。市民による展示活動を実施する場合においても、申し込み順や抽選などによって安易に開催を決めてはならない。ここは市民ギャラリーではないと市民ギャラリーは他に交流センターの中や東小金井の施設ができるの

だからここは一定のレベルを保つことを目的にするということが最初の委員会で方向性が出されていますので、次の委員会は、そのことを前提にした上で話を進めて行くということになっています。

ですから、市内作家展とか市民参画参加などこの前の委員会でよくいった言葉はやはり日常生活とは少し離れた人の危機感、空間そして環境をつくるということが2つの委員会のこの前の委員会の前提になっています。

(淀井委員)

そうするとここの事業計画というところに出ているのは少しあいまいな表現になっているということですね。

子どもの創作活動への支援ということも今はやりですけれども難しいですよ。でも必要なことですね。

(鉄矢会長)

そうですね。これがイメージしているのは、その場でやるか野川や広場でやるか美術館自体が小さなものですからもう少し活動を美術館という施設の中に限定するわけではなくても活動はできるだろうということもあります。

(淀井委員)

学芸員というのは、市の方ですか。

(小柳委員)

非常勤職員2名です。

(淀井委員)

学芸員の方の責任というか方向、勉強の仕方というかそれがかなり重要ですよ。大変難しいですね。

(千村委員)

市民の代表としてくるとやはり今のお話の中のことをしっかりと確認していかないと、私たちの作品の展覧会をしてよとかそういうのがあってその攻防戦にならないようにしっかりと基本は自分の心の中にやっていかなければという気持ちになります。

(鉄矢会長)

市内作家展というのがありますよね。どこから作家なのかという一番難しいところで、若手だって受賞してなくても「いいものはいいい作家」を見出す学芸員の目というものをどういうふうに市民に理解してもら

うかということが多分大きな課題になるのかなと思っています。

年間スケジュール(案)の大まかな考え方もお話していただくといひかなと思うのですが。このプログラム、小学校4年生を対象としたワークショップ展というのは、どういう展覧会なのかまったく見えないものですから。なんとなく狙いとかいただくと今年はこの計画でいくんだとこの運営計画の中に見えるかなと思うのですがいかがでしょうか。(薩摩学芸顧問)

私が前段の方を申します。後は、学芸員からお願いしたいと思ひますが。この提言に書いてある内容と現在の状況とはかなり違った状況にございます。

ただそれは、はっきり言って提言書というのは理想的なことが書いてありますので、これを一つのバイブルとして美術館の一日も流れておりますのでそのつもりで私も仕事をしていくつもりであります。

今、中村研一回顧展を開いております。その次に、ワークショップに関しましては、今、学芸員が関わっております。そして、市内作家展というのは、はっきり申しまして現在まだ方向性が定まらない状況でございます。

この2つの前の委員会に参加された市の作家の方と一度お会いしてご意見を伺ったのですが、市内作家展になるとそういうふうな目的で拘る必要があるのかと市立美術館だからといっても市内、市外にする必要はないのではないかとそれを広げてレベルを上げることをつかむべきではないかというようなご意見を市内の作家の方々からいただいたというような状況でございますので予算的な部分この部分が残念ながら白紙の状態になってございますので、この回顧展とワークショップ展に関しましては学芸員の方からご紹介します。

(横田学芸員)

中村研一回顧展及びワークショップにつきまして、具体的に説明をさせていただきますと思ひます。

今年度中村研一回顧展につきまして、ご遺族より小金井市に寄贈いただいたことへの感謝ということ、また、当美術館の基本的なコレクションとなる中村研一という画家を、近隣の美術館から主要な作品をお借りして、初期から晩年までの全体像を見渡すような形で展示を企画いたしております。

その次でございますが、ワークショップ展を企画いたしております。現代美術の作家 4 名の方が現在、実際に動いてくださっていますが、この 4 名の作家の方に依頼いたしまして、9 月毎週土曜日にそれぞれワークショップを行うことになっております。この対象は、小学校 4 年生としております。当初は、全般的に広い子どもを対象とするものを考えておりましたが、なにせその作家 1 人に対して見ることができる子どもの数が限られてまいります。そこでまず、一番効果的な年齢層がどこかと考えた時、自分の価値観を形成してくる大体 10 歳ぐらい、今の小学校 4 年生かと思いました。現代美術のワークショップ体験を通して、ちょうど自分の価値観を形成していく子ども達に、いろいろな見方があるのだということを示唆できるのではないかと思ったわけです。

ただ、作家に直接触れ合うことができる子ども達は、非常に少ない数なので、それ以外の小学校 4 年生を対象に美術館で鑑賞教育を行えないかを、館長名を通して各校に要請しております。このような形で、子ども達のワークショップを行った後、ワークショップで創られた作品を現代美術の作家が再構成し、子どもの作品を少し変化させ、より作家に近い、芸術領域に近いところのものを展示するようにいたします。ただ子どもがつくった作品を展示するだけでは、単なる子ども作品展になってしまい、芸術空間であるべき美術館の意義とは違ってまいります。そこで、作家が再構成した作品の展示となるわけです。ワークショップ、その後の子どもと作家のコラボレーション作品の展示、そしてその後には、4 人の現代美術作家独自の展覧会を開催いたします。この 3 つの段階を踏みまして、観ている方が日常から芸術空間へと移行しやすくなるのと同時に、そのプロセスを見ていただけるよう工夫を考えております。

作家さんに関しては、本日資料を用意してございませんので、後日提出させていただきたいと思っております。口頭でご説明させていただきますと、多田正美さんはサウンド関係、音と映像を中心に作品を作られています。吉澤美香さんは画家の方で、色や形にこだわりを持って描いていられる作家さんです。あと松下誠子さん、こちらの方も画家です。そして最後に柴田敏雄さん、この方は写真家でいらっしゃいます。それぞれの作家さんには、子どものワークショップに関して、野川や商店街、駅周辺など、日頃遊んだり慣れ親しんだ環境と現在の子どもの達との関係、今現在の子どもの小金井市のかかわりという内容で、ワークショップを行って

いただくようお願いをいたしております。

以上で、今年度の企画につきましてご説明を終わらせていただきます。
(鉄矢会長)

今、運営協議会の運営要綱がお手元まで配られたと思いますので、我々に課せられたものは一体何であるかを確認していきたいと思いません。

第2条協議会は小金井市はけの森美術館の運営に関し市長の諮問に応じるとともに当該美術館における運営のあり方、事業内容運営等について検討しその結果を市長に報告する。それから第3条協議会の会議は公開とする。ただし、公開することが協議会の運営に支障がある場合は、非公開とすることができる。以上のところですね。やることは。この結果を報告するのは、年度年度ではなくその都度報告することによろしいですか。

(小柳委員)

予算的には年度年度とってございます。今年につきましては、4回。

(鉄矢会長)

まとめて出せということであって、会議でやったものはすぐに市長に報告しなくていいという考えでよろしいですか。

(小柳委員)

はい。

(鉄矢会長)

今4回とっている大まかなスケジュールというものがありますか。

というのは、美術館自身が来年度予算とか来年度の計画をこう立てるんだという中にこの諮問協議会がどのように絡んで行くスケジュールなのか。

(小柳委員)

予算要求につきましては、おそらく10月の予算要求かと思っています。それまでに予算要求に絡んで美術館の要求をするわけですが、9月中ごろまでには財政の方に予算要求をしなければならないという形で通知がくるとしています。これはあくまで予定でございまして、その頃までに必要に応じて2回目を開催したいと考えております。

(鉄矢会長)

我々が事業に対して提案をするとか何とかするというのは、その時

我々は多分学芸員さんとか美術館を信頼しなければいけないということですね。信頼しながらもそれに対してこういうアイデアがあるよとか言ったりする場はうまくつくればいいのかと思うんですね。私の個人的な意見です。

そうすると一体いつそれをやらなければいけないのか。その後、我々はどういうタイミングでこれをやるのかというのが今企画している展示の中間中なのかどういう段階なのかというのをまだ館長決めていないのでしたら。

(小柳委員)

具体的には皆さんにご相談しながら決めていきたいと思っていますけれども、こちらもあくまで予想でございましてまだどういう形になるか具体的な来年度の予算要求については例年にならってということで今お話をしたわけですがけれどもご参考にとということなんですが。

(鉄矢会長)

私が危惧するのはつい企画委員会のような気がしちゃうのはいけないと思っているので、この委員会そうでないならあるタイミングでどういうふうにとどのような視点でこの美術館をみていこうかということをやりたい。

(淀井委員)

企画は私たちがやることではないですね。

(鉄矢会長)

ですから今館長にお願いしたいのは、今立ち上がっているいろんな忙しい中だと思うのですがこの運営協議会とどう歯車を組んで行くかというのを例えば我々も運営委員として展覧会、芸術を見に行っているいろんなことを思ったりしたんです。

それをうまくフィードバックして次のものに変えて行くための話もあるだろうし、来年やろうとか今年やろうという話が出た時にだったらこういう市民側から支援するともっと関わることがあるのではというアイデアの支援もあるかもしれないということが実際のこの会がどういうふうに関係を支援したりチェックしたりするタイミングをつくるかということをおつくりいただいた方がよいと思います。

(小柳委員)

そうですね。わかりました。

(鉄矢会長)

あと10分位ですけれども、まだ質問、富士道先生何かございましたらお願いします。

(富士道委員)

今日一番お聞きしたかったのは、子ども向けの教育プログラムについて、あるいは、先ほど申し上げた学校の教育との関わりをどうしていくのかということがあったのですが、これはおそらく今後の課題だと思います。

そういう意味では今後事業内容というのがある程度原案が出てくるのかどうかかわりませんが、その段階では様々なことを組み立てていかなければならないと思っています。同時に本来は様々なところからご意見を頂戴しながら事業を組み立てていく中で、私たちは総括的にそれに対して意見を申し上げるという形にしていけないとと考えています。私たちは、あくまでも市長の諮問に対する答申を出すということです。運営のあり方、事業内容、経営についてどうするかという諮問だと思いますが、それに対する原案を頂戴しながら事前に情報、資料をいただいて読む時間をいただかないといけないと思います。準備をお願いしたいと思います。

(小柳委員)

その点につきましては、次回までにご通知方々議題に対するテーマですとか事前に皆様にお諮りできるような形でお配りしたいと思っていますのでどうぞよろしくをお願いします。

(鉄矢会長)

運営の話で4月1,367人、5月541人、6月369人という実態のお話をいただいたということは、何かそれに対しても皆さんいろんなことを考えたのかなと思います。そんな意見を伺わせていただくと運営協議会の方向性とかのヒントになるのかなと思います。

(小柳委員)

市長から集客率を上げるようにということでは言われていますのでその辺も皆さんのご意見をいただければと思っています。

(鉄矢会長)

この協議会がどういう皆さんの感覚を持っているのかということのとてもいい題材が出たのかと思っています。

(宮村副会長)

どうして観客数が減るのかということをも自分なりに探っていきたいなと思っています。

(淀井委員)

この4月が多くてだんだん減って行くことになってはいますが、1回見た人は2度は見ない。2度見るほどの魅力的な展示だったらそれはすばらしいことですね。美術館展にそんなに短期にどっと人が押し寄せるような企画というのは無理ではないかと思えます。

(小柳委員)

立ち上げてまだ3ヶ月という経過です。

(淀井委員)

最初の人たちはいろんな広報があつて、それを知つて1度行つて見ようかなとそれは良かったと思うんですね。だから、美術館があつた場所にあつて、こういう環境でいいね、又、来てみたいと思わせることができたら。

(小柳委員)

交通が駅から徒歩15分から20分という形になっていますのでそこら辺も表示はしてございますけれども、今までは、北門が閉まっていたのを開けて緑地公園の中を歩いて美術館に入れるような形で10月以降に開館予定をしています。

(千村委員)

私はまた違う考えなのですが、友人たちが中村研一美術館の絵を見に来るのではなく、はけの道とか野川といういいところがある。美術館があるというので寄つてみようかなみたいな感覚があります。春の4月桜の頃とかすごく来る。そしてついでに美術館に寄るというので中村研一さんが何者かどういふ絵なのかぜんぜん考えもなしに美術館があるから何か佇まいがいいみないな感じで入る。それが市のものになるというので、その興味と春の気候でもってたくさんの方が入つたかと思つています。今はあまり観光らしき人たちは暑いし来なくなつてきているし、川が枯れたりすると益々来ない時期があるのでこの景色とか風物とかの関係で人を引き寄せる魅力が大いにあつたと思つました。

(淀井委員)

それに加えて、カフェみたいな施設があると良いですね。みんなどこ

かで休みながら、楽しく時間を過ごしたいわけですよ
ね。今度、オープンミトンを入れたことはよいと思います。

(鉄矢会長)

私は、安定低成長ぐらいがいいと思っています。オープンだから下がるのはしょうがないからその中で持ち上げるよりもだいたいこの位入るのがなにかいいなというある基準が300人とか250人なのかということをしつこく上げていく工夫とかがいいと思います。あまり入館者数の一喜一憂をやっているとそれの方に目的が変わっていくのは良くないでしょう。

もう1つは、このピラを見たときに展示換えしていないと思っていました。1、2という所蔵品展変化がこの間の途中であったかどうかというのが実はわからないしこれは大学にもあるケースですが、オープニングに行きその後変化があったと思ってないから1日行った展示が長く続いているというふうに見えたのだろうなど広報の難しさを感じたりしました。

今のような意見がいろんなデータとか展示をみると皆さんの方から出てきたりワークショップをみるといろんな意見が出てくるとそんな意見と是非美術館の方でどういうふうに汲み取りやすいのかということ踏まえて今後の計画などを作っていただけるとありがたいと思います。

今回の開催ですが、会長名で委員の皆様方に必要に応じて開催通知をお送りいたしますのでよろしくをお願いします。

その他につきまして何かございますでしょうか。

⑥ 今後の予定

(美術館渡邊)

事務手続きについて説明した。